



令和7年度 学校経営方針

I 教育目標

自ら学び 助け合い やりぬく子

II 重点目標

あたたかい声がとびかう

楽しい塩小

(12年次)

- ① 挨拶・・・元気な、明るく、先に
- ② 返事・・・大きな、明るく
- ③ 言葉・・・正しく、美しく、やさしく
- ④ 歌声・・・元気な、きれいな

- ・いきいき
- ・のびのび
- ・本気
- ・元気



III 令和7年度の重点

1 子供たちの「背景」や「特性」等を一層深く理解して、適切な支援につなげよう。

そのために

- ① 丁寧な児童理解、**児童の困り感をまるごと理解**する。表面的な行動、現象のみにとらわれない**柔軟さと寛容性**をもつ。
- ② **関係機関、家庭、地域との緊密な連携**を一層推進する。
- ③ 特別支援教育の取組、UDの視点に立った支援・指導を一層充実させる。
- ④ 生徒指導の一層の充実に向けた迅速な**情報共有、対応体制づくり**
- ⑤ 社会性及び人権感覚の育みに向けた取組の充実

そして

- ① **新たな不登校を出さない。**
- ② 子供たちの学ぶ意欲、活動する意欲を一層高める。
- ③ 児童間のよりよい人間関係を築く学級づくりを一層進める。

2 授業改善の積み重ねにより、児童の「思考力・判断力・表現力」の向上を目指そう。

そのために

- ① 児童の**学びの「中身と質」を一層高める。**
- ② 「学びの基礎力」を一層向上させる。
- ③ 子どもたちが自ら考える授業の実践を増やす。
- ④ **「聞く力」「読む力」の育成**を中核とした思考力の育成
- ⑤ 指導案の簡略化等の負担軽減による持続可能な校内研修を目指す。
- ⑥ 事前検討（周知）の充実による自分事として取り組む研修を実施する。

そして

- ① **「わかる喜び」「できる喜び」**を感じる児童を増やす。
- ② 児童の**学力の向上が数値として現れるように**する。

3 地域・保護者・児童との信頼関係の構築

そのために

- ① 児童や保護者の心に寄り添い、話に心を傾けて聴く。
- ② 家庭や児童の実態や心情をよく理解した上で、**事実を元にして臨む**。
- ③ 地域との関わりを大切にし、**誠実**に取り組む。

そして

- ① 地域・保護者・児童との**信頼関係を構築**する。
- ② 互いに役割を分担し、連携・協働でよりよい信頼関係を築く。

4 働き方改革の一層の推進を図ろう～意識改革と勤務環境の抜本的改善を目指す～

まずは意識改革を

★7時退勤を目指す

- ① 「何にどれだけ時間を使うかということは、自分がどう生きるかということ」という意識をもち、自ら働き方改革に臨む。
- ② **時間をかけることが美德であるという意識からの脱却**をし、自分の業務を計画的に進める意識、メリハリをつけた働き方を行う意識の向上を図る。
- ③ 「できない理由」を探すのではなく、変えるためにどうすればいいか皆で考え、心身共に健康で持続可能な働き方ができる学校現場を作る。
- ④ **「働き方改革」は子どもの前に元気に立つため、将来の日本の子どもたち(教育)のため**という思いをもつ。
- ⑤ 「仕事が終わったら退勤する」ではなく、「**今日は〇時に退勤する**」と考える。
- ① 時間外勤務の上限(「1ヶ月につき45時間、1年につき360時間」)は法律や文部科学省の指針によって定められているという受け止めをする。

そして

○文部科学省 資料1 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(答申)より(平成31年1月25日中央教育審議)

子どものためであればどんな長時間勤務も良しとするという働き方の中で、教師が疲弊していくのであれば、それは「子供のため」にはならない。 **学校における働き方改革の目的は、教師のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになること。**

IV 目標とする教育、めざす学校の姿の実現のために

(1) 子供の命、安全、安心及び人権の保障

～ 朝、通常の状態の家を出た子供が、元気なままで帰宅すること ～

- ① 事故防止
- ② いじめ問題
- ③ 自殺予防
- ④ 人権教育

※1番大切なのは、未然防止。子供をよく見ること。

起きてしまった時には早期発見と迅速なチームによる即時対応が重要。

⇒ そのためにもきめ細かな教職員間の情報連携を。

(2) 学校に対する信頼の構築（保護者、地域、児童、外部機関や他校から）

① 何ごとにも真摯・誠実な姿勢で

- ・ 課題、問題から逃げず、誠実かつ迅速に対応する。逃げたり隠したりすれば、問題は追ってくる。
 - ・ 課題、問題に対応することを学校の体制改善の好機ととらえる。
 - ・ 問題の発生を個人の責任ととらえすぎない。学校の組織として、また、体制の問題としてとらえ、オープンにしてチームで対応する。
- ・ 子どもに要求する道徳的な態度は、自分にも要求する姿勢を。(正しい言葉遣い、一緒に清掃、きちんとした服装 等)

② 教育のプロとしての自覚と向上心を

- ・ 子どもへの評価(成績が伸びない、子どもの態度が悪い)は、自分にも責任があると考え。
- ・ 「あの先生はプロだ」と感じさせる教師を目指す。
- ・ 自分の目指す実践と教師としての在り方を常に問い、試行錯誤し、追究し続ける。
- ・ 自分が塩沢小学校職員の一員であるという自覚をもって何ができるかを考える。

③ コンプライアンスの徹底

- ・ 非違行為(不祥事)の根絶。(クレームへの対応と違い、発生すれば助けることは不可能。)
- ・ 子供たちに説明のできないことはしない。安易に原則を変えない。
- ・ 互いに声を掛け合い、防止の徹底を行う。

② 当たり前のことが当たり前でできる児童集団の育成

- ・ 教室の中で「正義が通る環境」を作る。それにより、落ち着いた集団が形成される。
 - ・ 「舐める」部分と「自主性に任せ、待つ」部分を明確に。
 - ・ 集団として落ち着いていることが、子供たちや保護者の安心を生む。

(3) 児童の学習環境づくり

- ・ 清潔で潤いのある空間としての学習環境を整えることで、児童の情緒の安定を図る。
- ・ 美しいところは保たれる。汚いところは更に汚れる。

(4) 職員も心身の健康を第一に

- ・ 「あたたかい声がとびかう 楽しい教務室」に
 - 互いのよさに目を向け、認め、ともに協力する。
- ・ いつでも相談ができる職場環境の構築